

## 事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 30 年度
1次評価日（主幹等）	31年 3月 29日
2次評価日（課長等）	31年 5月 31日

1 事業名	保健センター管理事業			コード	41101	
2 担当部課	部等	健康福祉部	課等	健康推進課	作成者	上原 幸代
3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち			
		政策	保健・医療の充実	施策	健康づくりの推進	
		予算科目	保健センター管理費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし	
		設置条例	岡谷市保健センター条例			

## ●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
施設の概要 （簡潔に）	各種健診（検診）、各種予防接種、健康教室、栄養教室等を開催する。	
目的	対象者	市民
	意図	健康保持、増進を図る。

5 施設の管理運営状況		
指定管理者	30年度指定管理料	円
施設における 通常業務	各種健診、各種予防接種、健康教室、健康相談、栄養教室等	
事業の実施内容	<p style="color: red;">(30年度に施設で行った運営事業・自主事業など)</p> 保健センターの利用者が安全に利用することができるよう、維持管理、補修を実施した。清掃業務、勤務時間外の警備保安業務、消防点検業務、自動ドア保守業務については、業務委託により実施した。	
前年度の課題 への対応	毎日の点検実施により、修繕箇所の早期発見に努めた。	

6 施設の利用状況	*①は貸館施設のみ対象(ただし年間開設日数は入力) *②・③はどちらかの欄に記入 *			
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数(日)	243	244	244	240
1日の開設時間(時間)	9	9	9	9
年間利用可能時間(時間)	2,187	2,196	2,196	2,160
年間利用実績(時間)	2,187	2,196	2,196	
② 年間利用者数(人)	22,968	22,773	22,278	22,278
有料利用者数				
無料利用者数	22,968	22,773	22,278	22,278
減免措置者数				
③ 年間利用件数(件)	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	94.5	93.3	91.3	92.8
⑤ 施設利用状況の説明				

## 7 コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
① 直接事業費	4,078,576	1,326,333	1,775,785	1,720,000
経常経費	1,279,216	1,326,333	1,775,785	1,720,000
臨時的経費	2,799,360	0	0	0
* 臨時的経費の説明	平成28年度は相談室の改修			
区分	28年度	29年度	30年度	31年度(予算)
② 人件費	1,280,000	1,280,000	1,280,000	1,280,000
正規職員の人数(人)	0.16	0.16	0.16	0.16
③ 合計コスト(①+②)	5,358,576	2,606,333	3,055,785	3,000,000
前年度比		48.6%	117.2%	98.2%
財源内訳	5,358,576	2,606,333	3,055,785	3,000,000
一般財源				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 施設使用料年間収入額	0	0	0	0
⑤ 年間減免措置額	0	0	0	0
⑥ 受益者負担割合	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
⑦ 活動一単位あたりコスト	111	114	137	
前年度比		102.7%	119.8%	
⑧ コストに関する補足説明				

## ●事業の評価(CHECK)

### 8 妥当性評価

\* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

### 9 有効性評価

\* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。 1日あたり利用者数、件数 前年度比 97.8%		0
⑤ 施設使用料収入が増加した。 施設使用料年間収入額 前年度比 -	1	

## ●改善の内容(ACTION)

### 10 具体的な課題と改善

課題	(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)
	施設の老朽化に伴う維持管理
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	職員の巡視により、破損・修繕箇所の早期発見に努めるとともに、大掛かりな補修が必要な場合には、実施計画を策定していく。
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による31年度の優先度 *H29年度施策評価表より転記すること	B
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容			